

視点

新産業・新市場の 創出に向けて —埼玉の可能性—

地域経済産業審議官（前関東経済産業局長） 照井 恵光



関東経済産業局長として、1年3月にわたくし、さいたま新都心でお世話になり、本年4月、地域経済産業審議官に異動しました。在任期間中は公私にわたり格別のご高配にあずかりこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

30年前に旧浦和市に住んでいたことがあるので、埼玉は私にとって第二の故郷です。この間の埼玉の変貌ぶりは目覚ましいものがあります。大宮駅は3新幹線が発着する鉄道の要衝の地となり、西口が再開発され、ソニックシティができました。また、3市が合併して政令指定都市ができ、さいたま新都心には国の出先機関が集約され、スーパーアリーナが造られました。イベントのある時は、さいたま新都心は多くの人で賑わっています。

在任期間中においては、昨年3月の東日本大震災を契機にエネルギー供給制約や急激な円高など新たな課題が顕在化し、いわゆる6重苦の中で産業空洞化と国内雇用喪失の懸念が広がりました。さらに長期的には人口減少や少子高齢化による経済成長力の低下も危惧されるどころです。

しかしながら、この埼玉の地は人口も増加中であり、大きく発展する可能性をもっています。私はこの1年余の間、「現場主義」をモットーに埼玉県をはじめ1都10県の多くの企業経営者・地域経済界の皆様を訪問し、お話しを伺う機会に恵まれました。その現場において厳しい構造変化の波を乗り越え、さらにその波を成長の機会と捉えていこうとされる皆様の姿を拝見させていただきました。

埼玉には、今後の日本経済を牽引していく産業群として考えられる分野が多々存在しています。例えば「課題解決型産業」です。少子高齢化・エネルギー制約という課題を解決し、潜在内需を掘り起こしていくものです。医療機器、子育て・介護サービスなどのライフ・イノベーションや、エネルギー管理システム（BEMS/HEMS）の活用やスマートコ

● ミュニティの推進などのグリーン・イノベーションの分野です。埼玉県においても、未熟児の救命を可能とする肺に負担をかけない人口呼吸器を開発した中小企業、内視鏡と吸引チューブの高度技術を武器に介護現場で安全に扱える喀痰吸引器の開発を進める産学官の連携体、さらに、さいたま市における「次世代自動車・スマートエネルギー地域活性化総合特区」など大きな期待が寄せられています。

● 第二の分野は「クリエイティブ産業」です。クールジャパン、観光、文化などの政策融合を図り、輸出産業化・地域活性化を推進する分野です。埼玉県内では、鷲宮や秩父などがアニメと地域資源を融合してその魅力を発信、内外から数十万人が訪れるアニメ聖地に成長して地域活性化に貢献しています。この他、大宮の盆栽など県内には数百の地域資源が存在し、ジャパンプランドとして海外展開の潜在能力を秘めています。究極のジャパンプランドとも言うべき日本酒についても、埼玉は全国でも有数の酒蔵があります。

● 最後に「先端産業」です。次世代自動車、航空機産業、さらに当該産業を支える高度部材等の分野です。次世代自動車産業の裾野を広げようとするさいたま市を中心としたE-Kizunaプロジェクト等の試み、炭素繊維強化プラスチック部品の量産技術を開発して自動車軽量化等に貢献する中小企業など、埼玉県には果敢に次世代を切り開こうとする多くの企業やこれを支える自治体・支援機関が多数存在しています。

● 現在、私は全国の地方経済産業局と連携して地域経済活性化を推進する役割を担っています。関東経済産業局時代の現場経験、県内の企業経営者の皆様等からいただいたご意見は地域経済産業政策を推進する宝です。この宝を糧として我が国地域経済の活性化に邁進していく所存ですので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。